

日本および近接地域のシダ植物の命名に関する研究 II

中池 敏之¹⁾・山本 明²⁾

¹⁾ 千葉県立中央博物館

〒260 千葉市中央区青葉町 955-2

²⁾ 東京都立町田高等学校

〒194 町田市中町 4-25-3

要 旨 ホソバナライシダ (*Leptorumohra miqueliana*), ナンゴクナライシダ (*Leptorumohra fargesii*), オオカナワラビ (*Arachniodes rhomboidea*) の選定基準標本を選び, さらに, ヒロハナライシダ (*Leptorumohra sino-miqueliana*) の正基準標本を調べ, カワバタホシダ (*Christella × incesta*) の属名の組み替えをおこない, それぞれの学名を整理し, 合わせて基準標本の写真や分布図が出ている文献を示した。

キーワード: シダ植物, 学名, 異名, 選定基準標本, 正基準標本。

日本および近接地域におけるシダ植物の研究の一環として, このシリーズ I (中池, 1983) に続き, ホソバナライシダ, ナンゴクナライシダ, ヒロハナライシダ, オオカナワラビ, カワバタホシダの命名に関して, 以下のような新知見を得たので報告する。

6. ホソバナライシダ (一名ナライシダ) の選定基準標本と学名

1879 年, Franchet and Savatier は, ホソバナライシダの学名を *Aspidium miquelianum* Maxim. in litt. として, 次の標本を基に記載発表した。

Hab. in Japonia boreali (Sugerok). Nippon, in monte Fudsi yama (Savatier, n. 1593).

上記の標本 (等価基準標本) の内, Sugerok の標本はオランダ国立押し葉標本館に, Savatier の標本はフランス国立自然史博物館に保管されている。選定基準標本を定めるにあたって, これら 2 枚の標本を注意深く調べたところ, Savatier, n. 1593 の標本は孢子が不定型をしており, 葉柄の鱗片の残り具合, 小羽片や裂片の形, 葉の表の小羽軸の毛の量などから判断して, 間違いなくホソバナライシダとナンゴクナライシダの雑種であるタカヤマナライシダであることが判明した。一方, Sugerok の標本は孢子は定型をしており, 葉柄の色, 葉柄や葉軸上の鱗片の残り具合, 葉の表の小羽軸上の毛の量, 小羽片の形などから判断して, ホソバナライシダと認識 (中池, 1970, 1982, 1992. 1982 と 1992 の文献ではナライシダとして出ている) している taxon のものである。

上記の考察をもとに Sugerok の標本を選定基準標本として選ぶ。その結果ホソバナライシダの学名の正名, 異名の関係および関係する文献を整理すると次のようになる。なお, 基準標本の写真や分布図 (Yama-

moto and Nakaike, 1995) に関する文献もつけ加えた。

Leptorumohra miqueliana (Maxim. ex Franch. et Sav.) H. Ito in Nakai et Honda, Nova Fl. Jap. 4: 119. 1939. — *Aspidium miquelianum* Maxim. ex Franch. et Sav. Enum. Pl. Jap. 2: 240. 1876; 634. 1879. — *Dryopteris miqueliana* (Maxim. ex Franch. et Sav.) C. Chr. Ind. Fil. 278. 1905. — *Rumohra miqueliana* (Maxim. ex Franch. et Sav.) Ching in Sinensia 5: 67. 1934. — *Polystichopsis miqueliana* (Maxim. ex Franch. et Sav.) Tagawa in J. Jpn. Bot. 33: 94. 1958. — *Arachniodes miqueliana* (Maxim. ex Franch. et Sav.) Ohwi in J. Jpn. Bot. 37: 76. 1962. Lectotype (Selected here): Japonia boreali (Sugerok, L !, no. 908323-1167).

Arachniodes borealis Serizawa in J. Jpn. Bot. 61: 48. 1986. syn. nov.

Ic.: lectotype of *Aspidium miquelianum*: Nakaike, New Fl. Jap. Pterid. rev. & enl. 813. f. 870. 1992.

Distribution map: Yamamoto & Nakaike in J. Nat. Hist. Mus. Inst. Chiba 3(2): 158. 1995.

7. ナンゴクナライシダの選定基準標本と学名

ナンゴクナライシダの学名はこれまで, *Leptorumohra miqueliana* subsp. var. *narawensis* や *Arachniodes miqueliana* などが使用されていた。今回, 1905 年, Christ により, *Aspidium fargesii* として記載発表されたフランス国立自然史博物館所蔵の次の等価基準標本を調べることができた。

Hab. Su-tchuen: Tchen-keou-tin, 1,400 m., Farges 299, 342.

上記の標本はナンゴクナライシダと認識 (中池,

1970, 1992) している taxon のものである (Farges 299 の標本は 2 枚あった). 調べることができた上記の標本の内, Farges 299 の 2 枚の標本のラベルには Christ 自身によって, 2 枚ともに *Aspidium fargesii* n. sp. との手記があり, 原記載ともよく一致する. 2 枚の内, 1 枚の標本は最下羽片の一方が欠けている. 羽片が揃っている標本を *Aspidium fargesii* の選定基準標本として選びたい (指定した標本には中池の同定ラベルと選定基準標本である旨のラベルが付いている). この結果, ナンゴクナライシダの学名の正名, 異名の関係および関係する文献を整理すると次のようになる. なお, 基準標本の写真や分布図 (Yamamoto and Nakaike, 1995) に関する文献もつけ加えた.

Leptorumohra fargesii (Christ) Nakaike et Yamamoto, comb. nov. —*Aspidium fargesii* Christ in Bull. Soc. Bot. France 52. Mem. 1: 42. 1905. Lectotype (selected here): China: Su-tchuen, Tchen-keoutin, 1,400 m. (Farges 299, P !).

Dryopteris miqueliana var. *narawensis* Koidz. Fl. Symb. Or.-As. 42. 1930. —*Rumohra miqueliana* var. *narawensis* (Koidz.) Ching in Sinensia 5: 68. 1934. —*Rumohra miqueliana* form. *narawensis* (Koidz.) H. Ito in J. Jpn. Bot. 11: 581. 1935. —*Leptorumohra miqueliana* subsp. *fibriata* var. *narawensis* (Koidz.) Nakaike in Sci. Rep. Yokosuka City Mus. 16: 41. 1970.

Arachniodes miqueliana auct.; Serizawa in J. Jpn. Bot. 61: 52. 1986.

lc.: Lectotype of *Aspidium fargesii*: Nakaike, New Fl. Jap. Pterid. rev. & enl. 813. f. 872. 1992.

Distribution map: Yamamoto and Nakaike in J. Nat. Hist. Mus. Inst. Chiba 3(2): 159. 1995.

8. ヒロハナライシダの学名

ヒロハナライシダの日本における研究 (命名を含めて) の沿革はすでに中池 (1970) に記したので参照されたい. その時, 中池は Tagawa (1939) が考定した *Leptorumohra sino-miqueliana* について, 学名の基になる正基準標本を調べるができなかったが, 原記載と Ching (1934) が示した正基準標本の写真から判断して日本のものとは少し異なるものであろうという見解を示した. 今回, 中国科学院植物研究所 (北京) に保管されている *Rumohra sino-miqueliana* の正基準標本を調べるができた. その結果は, 標本はやや幼型に属するが, 中池がヒロハナライシダと認識 (中池, 1970; 中池, 1992) している taxon と同じであった. この結果, ヒロハナライシダの学名の正名, 異名の関係および関係する文献を整理すると次のようになる. なお, 基準標本の写真や分布図 (Yamamoto and Nakaike, 1995) に関する文献もつけ加えた.

Leptorumohra sino-miqueliana (Ching) Tagawa in Acta Phytotax. Geobot. 8: 232. 1939. —*Rumohra sino-miqueliana* Ching in Sinensia 5: 65. pl. 15. 1934. —*Polystichopsis sino-miqueliana* (Ching) Tagawa in J. Jpn. Bot. 33: 95. 1958. —*Arachniodes sino-miqueliana* (Ching) Ohwi, J. Jpn. Bot. 37: 76. 1962. Holotype: China: Pin-fa, Kweichow (Cavalerie 288, PE !).

Dryopteris miqueliana var. *fibriata* Koidz. in Mayebar, Fl. Austro-Higo, 5. 1931; in Acta Phytotax. Geobot. 1: 28. 1932. —*Rumohra miqueliana* from *fibriata* (Koidz.) H. Ito in J. Jpn. Bot. 11: 582. 1935. —*Leptorumohra miqueliana* var. *fibriata* (Koidz.) Kurata, J. Geobot. 10: 100. 1962. —*Leptorumohra miqueliana* subsp. *fibriata* (Koidz.) Nakaike in Sci. Rep. Yokosuka City Mus. 16: 41. 1970. —*Arachniodes quadripinnata* subsp. *fibriata* (Koidz.) Serizawa in J. Jpn. Bot. 61: 53. 1986. Holotype: Japan: Kyushu. Mt. Ichifusayama, Prov. Higo (K. Mayebar 531, KYO !).

lc.: holotype of *Rumohra sino-miqueliana*: Nakaike, New Fl. Jap. Pterid. rev. & enl. 813. f. 871. 1992; holotype of *Dryopteris miqueliana* var. *fibriata*: Nakaike, New Fl. Jap. Pterid. rev. & enl. 476. f. 476. 1992.

Distribution map: Yamamoto & Nakaike in J. Nat. Hist. Mus. Inst. Chiba 3(2): 159. 1995.

9. オオカナワラビの学名

オオカナワラビの学名に *Arachniodes rhomboidea* を考定したのは Ching (1964) であり, この学名は, 倉田 (1978), 中池 (1992) も使用している. ところが, この学名の基になる標本については Holttum (1968) 以外にだれも議論していなかったもので, 以下にその調査の結果を記す. なお, 日本におけるオオカナワラビの研究 (学名を含む) の沿革はすでに Nakaike (1975), 中池 (1993) に記したので参照されたい.

オオカナワラビの学名のもとになる *Polystichum rhomboideum* Presl は, 次の標本をもとに発表された.

Nepal (Wallich); Luzon (Cumming pl. phil. n. 131).

上記の標本はチェコのチャールズ大学に保管されている. Holttum 博士はこの標本を 1967 年に調べ, この 2 枚に *Arachniodes amabilis* (Bl.) Tindale とのラベルを標本上に記され, 発表 (Holttum, 1968) している. 今回, 調べた結果は, Nepal (ネパール) と Luzon (フィリピン) の標本はお互い異なった taxon に属する標本であった. Nepal 産の標本は日本のオオカナワラビと認識 (中池, 1992) しているものと同じであ

る。ネパールのカトマンズ盆地の常緑広葉樹林下に多産 (Nakaike and Gurung, 1990) する。さらに、ネパール産の染色体は日本の taxon と同じ 4 倍体 ($2n = 164$) 有性生殖型であることが調べられている (Matsumoto and Nakaike, 1990)。Luzon 産のものは、ジャワ (インドネシア) をタイプ産地とする *Arachniodes amabilis* と同種、あるいはきわめて近い種類に属するものである。また、原記載は両産地の標本を基に記載されていると考えられる。そこで、上記の考察をもとに (Wallich) の標本を選定基準標本として選ぶ。また、京都産 (Tagawa, 7470) の標本を基に記載された *Arachniodes amabilis* var. *fimbriata* K. Iwats. はオオカナワラビの学名の異名となる。Ching (1964) が学名を組み替えた時、Presl の文献の引用せず、Mettenius の文献を引用した。また、異名と考えた *Aspidium controversum* の基準標本も今回調べることができた (中国、スリランカ産の副基準標本はいずれもオオカナワラビであった)。それらを取りまとめ、オオカナワラビの学名の正名、異名の関係および関係する文献を整理すると次のようになる。合わせて基準標本の写真や分布図の出ている文献もつけ加えた。

Arachniodes rhomboidea (Wall. ex Presl) Ching in Acta Phytotax. Sin. 9: 383. 1964. —Nakaike, New Fl. Jap. Pterid. rev. & enl. 800. 1992. —*Polystichum rhomboideum* Wall. ex Presl, Epim. Bot. 54. 1851. —*Aspidium rhomboideum* (Wall. ex Presl) Mett. Phleg. et Aspid. 350. 1858. Lectotype (selected here): Nepal (Wallich, PRC !).

Aspidium controversum Hance in Ann. Sci. Nat. ser. 4. 18: 235. 1862. Syntypes: Prope pagum Sung tong, China australis (Harland, BM !); E. Zeylanica (Thwaites 3287, K !, B !; Thwaites 177, P !).

Arachniodes amabilis var. *fimbriata* K. Iwats. in Acta Phytotax. Geobot. 30: 42. 1979. Holotype: Japan: Kyoto (Tagawa 7470, KYO !).

Arachniodes amabilis auct.; Nakaike, Enum. Pterid. Jap. 183. 1975.

Ic.: lectotype of *Polystichum rhomboideum*: Nakaike, New Fl. Jap. Pterid. rev. & enl. 797. f. 857. 1992. Syntype of *Aspidium controversum*: Nakaike, New Fl. Jap. Pterid. rev. & enl. 250b. 1992. Kurata and Nakaike, Ill. Pterid. Jap. 1: 364. 365. 1979, as *Arachniodes amabilis*.

Distribution map: Kurata and Nakaike, Ill. Pterid. Jap. 1: 366. 1979, Japan, as *Arachniodes amabilis*.

10. カワバタホシダの学名

鹿児島県屋久島にて、1992 年、川畑政親氏によってイヌケホシダとケホシダの雑種が発見された。この

雑種に *Christella* × *kawabatae* の名前を用意し、研究の準備を始めていた。ところがこの組み合わせの雑種は Wagner (1993) によりハワイのカウアイ島にて 1987 年に発見された標本に基づいて、*Thelypteris* × *incesta* W. H. Wagner として記載発表されていた。そこで、ここでは、ハワイ以外では初めての産地としてここに報告する。また、属名に関しては Holttum (1971) に従っているので以下のような属名の変更を行った。

調べた標本: 鹿児島県熊毛郡屋久町中橋 (川畑政親 3509 の 1~5, CBM)。なお、生育現地での川畑氏の観察は次のようである。「1992 年 1 月 26 日 屋久町中橋林内に明るい草地があり、その、20 坪位の円内に、ホシダ 200 葉、ケホシダ 500 葉、イヌケホシダ 500 葉が各々群落をつくり相接するように住み分けていた。ホシダはやや高い所に、ケホシダはそれより少し低い所に、イヌケホシダと雑種は一番低い所で雨の時は水が流れるような所であった。ケホシダの群落が一番大きい。一略— ケホシダとイヌケホシダの群落の隣にずばぬけて大きな葉が直立していた。一略」。

Christella × *incesta* (W. H. Wagner) Nakaike et Kawabata, comb. nov.

Thelypteris × *incesta* W. H. Wagner in Contr. Univ. Michigan Herb. 19: 79. 1993. Holotype: Kauai: Wahiawa, (10 Apr. 1987, Wagner 87191, MICH, n. v.).

Christella × *kawabatae* Nakaike, New Fl. Jap. Pterid. rev. & enl. 828. f. 892. 1992. nom. nud.

Specimens examined. Japan: Yaku-shima, Pref. Kagoshima (26 Jan. 1992, M. Kawabata 3509, CBM).

謝 辞

標本を調べさせていただいたドイツ、ダーレム植物園 (B)、イギリス自然史博物館 (BM)、イギリス、キュー王立植物園 (K)、オランダ国立おしば標本館 (L)、フランス自然史博物館 (P)、中国科学院植物研究所・北京 (PE)、チェコ、チャールズ大学自然科学部 (PRC)、京都大学理学部 (KYO)、千葉県立中央博物館 (CBM) の標本整理や管理に携わっている方々にお礼を申しのべる。

引用文献

- Ching, R. C. 1934. A revision of the compound leaved Polysticha and other related species in the continental Asia including Japan and Formosa. Sinensia 5: 23-91.
- Ching, R. C. 1964. Notes on some confused species of *Arachniodes* Bl. Acta Phytotax. Sinica 9: 383-385.
- Holttum, R. E. 1968. A commentary on some type specimens of ferns in the Herbarium of K. B. Presl.

- Nov. Bot. (Praga) 1968: 3-57.
- Holttum, R. E. 1971. Studies in the family Thelypteridaceae III. A new system of genera in the Old World. *Blumea* 19: 17-52.
- 倉田 悟. 1978. カナワラビ属の七新羊歯. 北陸の植物 18: 97-99.
- Matsumoto, S. and T. Nakaike. 1990. Cytological observations of some ferns in Nepal. (1) On the related taxa in Japan. *In* M. Watanabe and S. B. Malla (eds.) *Cryptogams of the Himalayas*, vol. 2. Central and Eastern Nepal, pp. 163-178. National Science Museum, Tsukuba.
- 中池敏之. 1970. 日本および台湾のナライシダ属について. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学) 16: 37-43.
- Nakaike, T. 1975. *Enumeratio Pteridophytorum Japonicorum*. 375 pp. University of Tokyo Press, Tokyo.
- 中池敏之. 1982. 新日本植物植物・シダ篇, 808. pp. 至文堂, 東京.
- 中池敏之, 1983. 日本および近接地域のシダ植物の命名に関する研究 I. 国立科学博物館研究報告 (植物) 9: 75-84.
- 中池敏之, 1992. 新日本植物植物・シダ篇, 改訂増補版. 868 pp. 至文堂, 東京.
- 中池敏之. 1993. 植物の名前を知る. *In* 自然への窓口. 73-93. 国立科学博物館, 東京.
- Nakaike, T. and V. L. Gurung. 1990. Distribution maps of pteridophytes in Kathmandu, Nepal (3). *In* M. Watanabe and S. B. Malla (eds.), *Cryptogams of the Himalayas*, Vol. 2. Central and Eastern Nepal, pp. 187-198. National Science Museum, Tsukuba.
- Tagawa, M. 1939. *Specilegium Pteridographiae Asiae Orientalis* 20. *Acta Phytotax. Geobot.* 8: 229-236.
- Wagner, W. H., Jr. 1993. New species of Hawaiian pteridophytes. *Contr. Univ. Michigan Herb.* 19: 63-82.

- Yamamoto, A. and T. Nakaike. 1995. Distribution maps of the fern genus *Leptorumohra* in Japan. (in Japanese with english summary). *J. Nat. Hist. Mus. Inst., Chiba* 3(2): 147-160.

(1994 年 11 月 8 日受理)

Nomenclatural Study in the Pteridophytes from Japan and the Adjacent Regions II

Toshiyuki Nakaike¹⁾ and Akira Yamamoto²⁾

¹⁾ Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260, Japan.

²⁾ Machida Senior High School
4-25-3 Naka-machi, Machida-shi, Tokyo 194, Japan

The following five species were studied on the taxonomical and nomenclatural viewpoint. *Leptorumohra miqueliana*, *L. fargesii*, *L. sino-miqueliana*, *Arachniodes rhomboidea*, and *Christella* × *incesta*. As a result, the lectotype of the following three species were chosen: *Leptorumohra miqueliana*, *L. fargesii*, and *Arachniodes rhomboidea*. The following novitates were established: *Leptorumohra fargesii* (Christ) Nakaike et Yamamoto, *com. nov.*; *Christella* × *incesta* (W. H. Wagner) Nakaike et Kawabata, *comb. nov.* The holotype of *Leptorumohra sino-miqueliana* was studied, and the latin name was rearranged taxonomically as shown the text.